10年たったら、とりカエル。



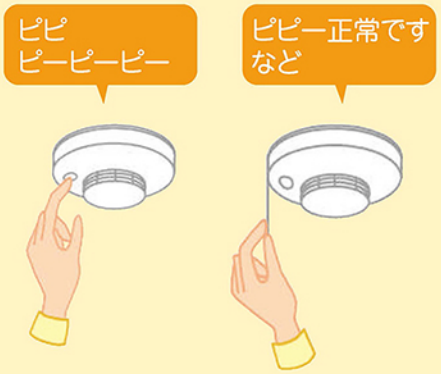
住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで、
火災を感知しなくなったり、故障しやすくなります。
安心・安全のために、定期的に作動をテストし、
10年を目安に交換しましょう。

正常に作動するか、定期的にテストしよう!!

ボタンを押す、または引きひもを引いて作動確認をしてください。

正常な場合は?

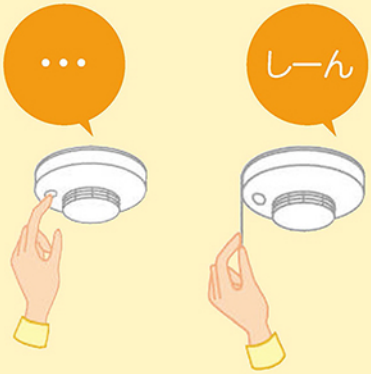
正常をお知らせするメッセージ、または火災警報音が鳴ります。



※警報音はメーカーや製品により異なります。

音が鳴らない場合は?

電池がきちんとセットされているか、ご確認ください。



●それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。

動画 住宅用火災警報器について知ろう!

中濃消防の署員が熱演!



「住宅用火災警報器って何、必要なの?」

見てね!



新しい火災警報器に交換したら!

本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。

●取扱説明書は、大切に保管してください。



記入例
設置年月 2025年7月

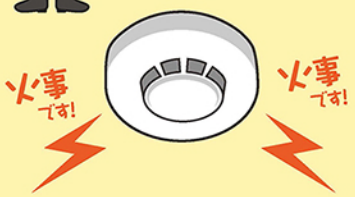




こんなあなたは危険です!



「そもそも設置していない」「家を建てた時に付いていたそのまま」
「鳴るかどうか、一度もチェックしていない」



住宅用火災警報器設置の有効性～死亡率の比較

火災警報器が設置されている住宅は
①死亡者数が半分に減少
②損害額も半減、焼損床面積は約60%減少

※消防庁の分析

⚠ ご注意ください

- 火災警報器の種類によって、細かい注意点が異なります。製品に付属している取扱説明書を必ずご覧ください。
- 交換やお手入れ、作動確認は、高所での作業となり、転倒や落下などの危険があります。安定した足場を確保して作業を行ってください。
- 煙の出る殺虫剤等を利用すると、警報音が鳴ることがあります。火災警報器をビニール袋で覆うなどしてください。終了後はビニール袋を必ず取り外してください。

※本チラシは、一般社団法人 日本火災報知機工業会制作ホームページ・印刷物を抜粋・参考にしています。